

第1回検討審議会 会議要旨及び意見募集状況の確認

【組合ホームページでの意見募集結果(1／2)】

住民からの主な意見とそれに対する事務局での検討結果は次のとおりです。

No	検討事項	意見内容	検討結果
1	処理対象物 及び施設規模 (処理対象物)	・使用済み紙おむつ 紙おむつに付着した感染性ウイルス・細菌が作業員への二次感染を防止のため、もったいないと思うが可燃ごみ処理が望ましい。	いただいたご意見は、今後の議論の参考にさせていただきます。
2	処理対象物 及び施設規模 (処理対象物)	・剪定枝 剪定枝に付着した病害虫枝も含まれており、細粉化しての肥料は他の田畑に病害を拡大させる恐れがないか。焼却が望ましい。	いただいたご意見は、今後の議論の参考にさせていただきます。
3	処理対象物 及び施設規模 (処理対象物)	・ペット等の焼却 新施設での焼却とはいえタンパク質等の焼却の臭いは耐え難く、少しでも美化センターでの焼却ガスを減らして欲しい。個人で民間処理が望ましい。	いただいたご意見は、今後の議論の参考にさせていただきます。
4	処理対象物 及び施設規模 (処理対象物)	・プラスチック資源 住民が捨てる時点での問題と思う。燃えるごみとプラスチックを住民が捨てる時、根気よく理解を得て捨て易く誘導するしかないのではないか。	いただいたご意見は、今後の議論の参考にさせていただきます。

第1回検討審議会 会議要旨及び意見募集状況の確認

【組合ホームページでの意見募集結果(2/2)】

住民からの主な意見とそれに対する事務局での検討結果は次のとおりです。

No	検討事項	意見内容	検討結果
5	処理対象物 及び施設規模	・施設のコンパクト化 施設をコンパクト化したものの、今まで不燃物処理されていた物が粉砕されて可燃化することで、稼働日数が増加し焼却排出ガス量も増えることにならないか。	処理対象物とする不燃物(破碎不燃物)は年間あたり約305t※であり、計画ごみ焼却処理量の0.6%程度であることから、稼働日数や排ガス量への影響はほとんどないものと考えています。
6	環境保全計画 (煙突高さ)	・煙突の高さ 煙突の高さが従来通り同じ高さなら、排出されるばいじん・ガスの降下量・基準値はともかくとして、降下地域は変わらないと思う。逆に従来よりも高い煙突設置でどのような変化が生じるのか。	次ページをご参照ください。

※ 第2回 資料2-2 処理対象物及び施設規模の設定(案)4ページをご参照ください。

環境保全計画(煙突高さ)について

【煙突高さ】 周辺への排ガスの影響

煙突高さによる大気質への影響の違いとして、煙突高さ59m(既存施設と同等)と80mの場合を比較しました(下表)。

- 煙突が高い方が、最大着地濃度地点の将来濃度は小さく、最大着地濃度出現距離は煙突から遠くなります。
- ただし、煙突高さ59mの場合でも、寄与濃度はバックグラウンド濃度(現況)と比較して小数点1～2桁小さい値となっており、将来濃度は現況と同程度となるものと予測されます。
- また、いずれの項目も環境基準を下回る結果となっています。

項目	煙突高さ	バックグラウンド濃度(年平均値) ^{※1}	最大着地濃度地点の将来濃度(年平均値)	最大着地濃度出現距離	日平均値の2%除外値 又は年間98%値	環境基準
二酸化窒素 (ppm)	59m	0.008	0.0086	約1.3km	0.0204	1時間値の1日平均値が0.04から0.06までのゾーン内又はそれ以下
	80m		0.0084	約1.5km	0.0199	
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	59m	0.013	0.0131	約1.3km	0.0291	1時間値の1日平均値が0.10以下
	80m		0.0131	約1.5km	0.0290	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³) ^{※2}	59m	0.029	0.0294	約1.3km	—	年間平均値が0.6以下
	80m		0.0293	約1.5km	—	

※1:バックグラウンド濃度は、排ガスの影響を考慮する前の、もともとの大気中に含まれる物質の濃度。
※2:pg-TEQ/m³:空気中に含まれるダイオキシン類の濃度を示す単位。pg(ピコグラム)は1兆分の1グラム。